

新製品 新技術紹介

『PLジョイント／Bptype』

岸上 昌史

株式会社立基 代表取締役

〒461-0005

名古屋市東区東桜2丁目10番1号 ヤハギ東桜ビル7F

TEL:052-938-4841

URL: <https://tatsuki-k.co.jp/>



【製品の特長】

現場で型枠を組み打設する地中梁は、工場生産品・工場品質のハンドホールと違い、接続面の平滑が保持できない事が多く、それに対応出来る様、パッキンの厚みを従来品の2倍近くにしました。スリーブ用にあらかじめ仕込まれるパイプのサイズを調べつくし、スリーブ内でFEPが暴れても隙間ができないフランジ径に設計しました。また、ハンドホール用継手でもよく提案されていた、どれくらい締めれば施工完了かを知り得る目安を、さまざまな実験を繰り返し、硬度の違う黄色パッキンをパッキン先端に付ける事によって、黄色パッキンが見えなくなるまで締め込めば施工完了という目安を確立しました。

【今後の展開】

ハンドホール用継手を世に広めるのに非常に寄与した国土交通省の新技术情報提供システム:NETISをもなく取得する予定です。今後もより大きな課題となる人手不足。インフラ工事の省力化に微力ながら貢献し続けていきたいと思っております。

【はじめに】

令和4年度名古屋市工業技術グランプリにおきまして、「地中梁スリーブ配管施工用PLジョイント/Bptype」にて公益財団法人名古屋産業振興公社理事長賞を受賞いたしました。改めて関係者各位の皆様にご挨拶申し上げます。これを励みに今後もさらなる商品開発に取り組んでまいり所存でございます。

【会社概要】

当社は、電線及びケーブルを地中埋設する際に必要となる、電柱に代わる中継・分岐ボックス:ハンドホールを生業とする、昭和42年創業のメーカーです。名古屋本社を中心とした東海圏、大阪支店を中心とした関西圏、昨年から沖縄出張所を拠点に沖縄県にてハンドホールを供給させていただいております。また、業界に先駆けて開発しましたハンドホール用継手「PLジョイント」は、日本全国の電設資材商社や同業者に販売させていただいております。

【開発の背景】

電線・ケーブルの保護管:FEPを、誰でも簡単且つ綺麗にコンクリート製のハンドホール壁面に接続固定出来る継手を、現場で徹底的にヒヤリングし、20年前に開発したのがハンドホール用継手「PLジョイント」です。現在は改良を加えStype・MRtype・Kftypeの3種類で全てのFEPに対応可能な製品となっています。日頃からPLジョイントをご利用いただいているエンドユーザーから「地中梁スリーブ配管施工に流用しているけど専用の継手を作って欲しい」という依頼を受け、一昨年より聞き取り調査をはじめました。すると、ハンドホール用継手開発当初の20年前と、ほぼ同等レベルのアナログな施工方法がいまだに主流であり、さらには、ハンドホール用継手PLジョイントを流用されている工事店が、予想よりはるかに多くいらっしゃったのには驚きました。

